

(全学共通)

研究	目的：個々の教員による研究推進能力の開発		
	到達目標（個人）	FDプログラムの例	評価指標の例
フェーズⅠ： 導入（知る）	<ul style="list-style-type: none"><li>① 教員の業務を推進するために、研究がその裏付けであることを認識する。</li><li>② 所属機関(学部や学科など)の理念や目標を達成するために、計画的に研究を進めることの重要性を理解する。</li><li>③ 学術論文を読み、クリティーク（評価・検討・判断）する。</li><li>④ 良い研究の条件（Feasible, interesting, novel, ethical, relevant）を理解する。</li><li>⑤ 共同研究に指導を受けながら参加する。</li><li>⑥ 研究成果を地域からも世界に発信できることを理解する。</li></ul>	<b>【学科及び全学主体】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>1. オリエンテーション</li><li>2. ガイダンス</li><li>3. インターラクティブ・ファカルティクラブ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>1. プログラムの参加者・利用者数</li><li>2. プログラムの参加者・利用者の満足度、</li><li>3. 目標の到達度</li></ul>
フェーズⅡ： 基本（実践）	<ul style="list-style-type: none"><li>① 研究テーマの意義・有用性について十分精査する。</li><li>② 研究テーマに関する地域の現状を把握し、関係者と連携する。</li><li>③ 研究計画を立案する。</li><li>④ 研究成果を研究会および学会等で発表する。</li><li>⑤ 研究成果を論文にまとめる（柔軟に投稿規程に対応する）。</li><li>⑥ 研究内容を対象者に解り易く説明する。</li><li>⑦ 共同研究に参画する。</li></ul>	<b>【学科主体】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>1. 共同研究内での指導助言</li><li>2. セミナー参加</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>1. 学会発表数</li><li>2. 発表論文数</li><li>3. 特許出願</li></ul>
フェーズⅢ： 応用・発展 （開発・改善と 成果の報告・発表）	<ul style="list-style-type: none"><li>① 自己の分野に新しい知見を提供する。</li><li>② 査読付き学術雑誌の論文にまとめる（研究成果の発信）。</li><li>③ 外部の研究資金を獲得する。</li><li>④ 著書の出版に貢献する（研究成果の発信）。</li><li>⑤ 個人、さらに若手教員と共同で研究を行なう。</li></ul>	<b>【学科主体】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>1. セミナー参加</li><li>2. 学会での相互交流</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>1. 発表論文数</li><li>2. 出版著書数</li><li>3. 技術開発・技術移転</li></ul>
フェーズⅣ： 支援 （教授と支援）	<ul style="list-style-type: none"><li>① 若手教員・研究者がさらに創造的な研究ができるよう支援する（次世代研究者の養成）。</li><li>② 若手教員・研究者が存分に研究力を発揮できる魅力的なプロジェクトを形成し、外部資金を調達する。</li><li>③ チームの研究及び実践の成果を外部へ提供する。</li><li>④ 国内外の研究者が参加する学会を招聘する。</li></ul>	<b>【学科及び全学主体】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>1. チーム・ティーチング</li></ul> <b>【学科主体】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>1. コンサルテーション（個別、グループ）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>1. メンティによるメンター評価における満足度、目標の到達度</li></ul>